

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第33期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社誠建設工業

【英訳名】 Makoto Construction CO,Ltd

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小 島 一 誠

【本店の所在の場所】 大阪府堺市中区福田46番地

【電話番号】 072-234-8410

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室長 平 岩 和 人

【最寄りの連絡場所】 大阪府堺市中区福田46番地

【電話番号】 072-234-8410

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室長 平 岩 和 人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	1,290,619	1,500,864	3,467,477
経常利益 (千円)	84,237	106,258	328,627
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	57,641	72,184	219,859
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	56,415	102,362	244,290
純資産額 (千円)	3,603,248	3,843,192	3,791,124
総資産額 (千円)	5,776,566	5,125,659	5,354,316
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	28.65	35.88	109.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	62.4	75.0	70.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	409,111	390,901	311,016
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,019	11,639	3,041
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	154,108	267,393	725,784
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,468,920	1,128,466	993,318

回次	第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	23.33	22.47

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は4,010百万円となり、前連結会計年度末に比べ257百万円減少いたしました。これは、現金及び預金が135百万円、販売用不動産が163百万円、仕掛販売用不動産が96百万円増加しましたが、受取手形・完成工事未収入金が658百万円減少したことなどによります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は1,115百万円となり、前連結会計年度末に比べ28百万円増加いたしました。これは、投資有価証券が42百万円増加しましたが、建物及び構築物（純額）が3百万円減少したことなどによります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は696百万円となり、前連結会計年度末に比べ344百万円減少いたしました。これは、支払手形・工事未払金が22百万円、短期借入金が36百万円、1年内返済予定の長期借入金が230百万円、未払法人税等が48百万円減少したことなどによります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は586百万円となり、前連結会計年度末に比べ64百万円増加いたしました。これは、長期借入金が49百万円、繰延税金負債が14百万円増加したことによります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,843百万円となり、前連結会計年度末に比べ52百万円増加いたしました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益72百万円の計上、その他有価証券評価差額金の増加額30百万円、配当金の支払額50百万円によります。

(2) 経営成績の状況

(売上高)

セグメントの名称		前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		
		売上高(千円)	構成比(%)	売上高(千円)	構成比(%)	前年同期比 (%)
戸建分譲 住宅事業	建売住宅事業	867,328	67.2	1,409,826	93.9	62.5
	請負住宅事業	382,993	29.7	50,672	3.4	86.8
	小計	1,250,321	96.9	1,460,499	97.3	16.8
不動産仲介事業		28,449	2.2	28,211	1.9	0.8
不動産賃貸事業		11,848	0.9	12,154	0.8	2.6
合計		1,290,619	100.0	1,500,864	100.0	16.3

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ情勢の長期化により世界的な金融引き締めが続く中、急速な円安の影響から原材料の価格高騰やエネルギー価格の上昇など先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する不動産業界におきましては、政策支援による低金利の継続やコロナ禍におけるリモートワークなどから住居への関心が高まり、住宅市況は堅調に推移いたしました。前述のとおり、原材料の価格高騰やエネルギー価格の上昇などから建築コストの高止まりの状況が続いており、先行きは依然不透明であります。

このような環境下、当社グループは「より良い家をより安く提供する」という経営理念の基に地域に密着し、高品質低価格な建売住宅を主幹事業として事業展開を図ってまいりました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、戸建分譲住宅事業におきましては、耐震・制震などの付加価値化に注力し販売促進を行った結果、売上高は1,460百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し210百万円(前年同期比16.8%)の増収となりました。

不動産仲介事業の売上高は28百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し0.2百万円(前年同期比0.8%)の減収となりました。

不動産賃貸事業の売上高は12百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し0.3百万円(前年同期比2.6%)の増収となりました。

(売上総利益)

当第2四半期連結累計期間の売上総利益は282百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し39百万円(前年同期比16.3%)の増益となりました。

(営業利益)

当第2四半期連結累計期間の営業利益は96百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し19百万円(前年同期比25.3%)の増益となりました。

(経常利益)

当第2四半期連結累計期間の経常利益は106百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し22百万円(前年同期比26.1%)の増益となりました。

(親会社株主に帰属する四半期純利益)

当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は72百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較し14百万円(前年同期比25.2%)の増益となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、主として税金等調整前四半期純利益106百万円、売上債権の減少額658百万円、前渡金の減少額12百万円により資金を獲得しましたが、棚卸資産の増加額258百万円、仕入債務の減少額22百万円、法人税等の支払額77百万円等の結果、390百万円の収入（前年同四半期は409百万円の支出）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、保険積立金の解約による収入13百万円により資金を獲得しましたが、投資有価証券の取得による支出0.7百万円等の結果、11百万円の収入（前年同四半期は1百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入れによる収入200百万円により資金を獲得しましたが、短期借入金の純減額36百万円、長期借入金の返済による支出381百万円、配当金の支払額50百万円の結果、267百万円の支出（前年同四半期は154百万円の支出）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は1,128百万円となり、前連結会計年度末と比べ135百万円の増加となりました。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,000,000
計	7,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,012,000	2,012,000	東京証券取引 所スタンダード 市場	単元株式数は100株であります。
計	2,012,000	2,012,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年9月30日		2,012,000		578,800		317,760

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社誠インベスト	堺市中区深井北町3169	670,800	33.34
株式会社誠リサーチ	堺市中区土師町5丁60-7-1	160,000	7.95
株式会社ホームリサーチ	堺市東区白鷺町1丁21-6	131,800	6.55
小島俊雄	堺市堺区	120,000	5.96
小島一誠	大阪府大阪狭山市	104,000	5.16
株式会社不死鳥インベスト	堺市北区中長尾町4丁5-18	70,000	3.47
誠建設工業社員持株会	堺市中区福田46	55,200	2.74
小島朝子	大阪府大阪狭山市	48,000	2.38
佐藤宏樹	千葉県松戸市	44,500	2.21
岸上富夫	大阪府門真市	43,000	2.13
計		1,447,300	71.94

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,010,700	20,107	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 1,100		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,012,000		
総株主の議決権		20,107	

(注)「単元未満株式」には、当社保有自己株式15株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社誠建設工業	大阪府堺市中区福田46	200	-	200	0.00
計		200	-	200	0.00

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清稜監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,202,819	1,337,969
受取手形・完成工事未収入金	825,989	167,243
販売用不動産	300,338	464,214
仕掛販売用不動産	1,853,331	1,949,653
未成工事支出金	17,671	15,685
その他	67,782	75,667
流動資産合計	4,267,933	4,010,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58,617	55,145
土地	640,990	640,990
その他(純額)	4,729	4,322
有形固定資産合計	704,338	700,458
無形固定資産		
のれん	1,012	759
電話加入権	127	127
無形固定資産合計	1,139	886
投資その他の資産		
投資有価証券	340,447	382,588
繰延税金資産	7,469	6,797
その他	32,987	24,493
投資その他の資産合計	380,904	413,879
固定資産合計	1,086,383	1,115,224
資産合計	5,354,316	5,125,659
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	193,375	² 170,940
短期借入金	36,000	
1年内返済予定の長期借入金	681,758	450,916
未払法人税等	81,606	33,398
賞与引当金	4,745	5,823
その他	43,479	34,994
流動負債合計	1,040,964	696,073
固定負債		
長期借入金	505,393	555,072
繰延税金負債	16,834	31,322
固定負債合計	522,227	586,394
負債合計	1,563,192	1,282,467

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	578,800	578,800
資本剰余金	317,760	317,760
利益剰余金	2,804,640	2,826,531
自己株式	141	141
株主資本合計	3,701,059	3,722,949
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90,064	120,242
その他の包括利益累計額合計	90,064	120,242
純資産合計	3,791,124	3,843,192
負債純資産合計	5,354,316	5,125,659

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	1,290,619	1,500,864
売上原価	1,047,837	1,218,550
売上総利益	242,782	282,314
販売費及び一般管理費		
役員報酬	29,054	29,270
給料及び手当	33,449	34,132
賞与引当金繰入額	3,267	3,323
法定福利費	9,718	10,114
販売手数料	15,152	24,645
広告宣伝費	11,226	11,642
租税公課	20,562	22,927
支払手数料	27,858	32,745
減価償却費	2,425	2,992
のれん償却額	253	253
その他	13,067	14,085
販売費及び一般管理費合計	166,036	186,132
営業利益	76,745	96,181
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	6,681	4,821
助成金収入	5,000	
保険解約益		5,769
雑収入	2,004	1,940
営業外収益合計	13,693	12,538
営業外費用		
支払利息	6,201	2,462
営業外費用合計	6,201	2,462
経常利益	84,237	106,258
税金等調整前四半期純利益	84,237	106,258
法人税、住民税及び事業税	28,487	30,373
法人税等調整額	1,890	3,699
法人税等合計	26,596	34,073
四半期純利益	57,641	72,184
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	57,641	72,184

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	57,641	72,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,226	30,177
その他の包括利益合計	1,226	30,177
四半期包括利益	56,415	102,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	56,415	102,362
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	84,237	106,258
減価償却費	4,666	4,412
のれん償却額	253	253
賞与引当金の増減額(は減少)	1,625	1,077
受取利息及び受取配当金	6,689	4,828
支払利息	6,201	2,462
助成金収入	5,000	
売上債権の増減額(は増加)	95,241	658,746
棚卸資産の増減額(は増加)	390,009	258,212
仕入債務の増減額(は減少)	3,113	22,434
前渡金の増減額(は増加)	8,650	12,180
契約負債の増減額(は減少)	23,149	900
その他	7,070	33,394
小計	372,114	465,620
利息及び配当金の受取額	6,689	4,828
利息の支払額	6,397	2,092
助成金の受取額	5,000	
法人税等の支払額	42,289	77,453
営業活動によるキャッシュ・フロー	409,111	390,901
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1	1
投資有価証券の取得による支出	560	754
有形固定資産の取得による支出	210	532
保険積立金の積立による支出	567	391
保険積立金の解約による収入		13,012
長期貸付金の回収による収入	54	56
その他	264	252
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,019	11,639
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	36,000	36,000
長期借入れによる収入	200,000	200,000
長期借入金の返済による支出	339,856	381,163
配当金の支払額	50,252	50,230
財務活動によるキャッシュ・フロー	154,108	267,393
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	564,239	135,147
現金及び現金同等物の期首残高	2,033,160	993,318
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,468,920	1,128,466

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	214,163千円	226,022千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
支払手形	千円	4,669千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	1,678,421千円	1,337,969千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	209,500千円	209,503千円
現金及び現金同等物	1,468,920千円	1,128,466千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月20日 取締役会	普通株式	50,294	25	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月19日 取締役会	普通株式	50,294	25	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	戸建分譲住宅事業			不動産 仲介事業	不動産 賃貸事業	合計		
	建売住宅 事業	請負住宅 事業	小計					
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	867,328	382,993	1,250,321	28,449		1,278,771	1,278,771	
その他の収益					11,848	11,848	11,848	
外部顧客への売上高	867,328	382,993	1,250,321	28,449	11,848	1,290,619	1,290,619	
セグメント間の 内部売上高又は振替高		427,812	427,812	13,059	4,036	444,907	444,907	
計	867,328	810,805	1,678,133	41,508	15,885	1,735,527	1,290,619	
セグメント利益	147,496	49,537	197,033	41,508	11,377	249,920	7,137	

(注)1 セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	戸建分譲住宅事業			不動産 仲介事業	不動産 賃貸事業	合計		
	建売住宅 事業	請負住宅 事業	小計					
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	1,409,826	50,672	1,460,499	28,211		1,488,710	1,488,710	
その他の収益					12,154	12,154	12,154	
外部顧客への売上高	1,409,826	50,672	1,460,499	28,211	12,154	1,500,864	1,500,864	
セグメント間の 内部売上高又は振替高		778,868	778,868	18,452	4,036	801,357	801,357	
計	1,409,826	829,540	2,239,367	46,663	16,190	2,302,222	1,500,864	
セグメント利益	236,593	11,702	248,295	46,663	12,110	307,070	24,755	

(注)1 セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	28円65銭	35円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	57,641	72,184
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	57,641	72,184
普通株式の期中平均株式数(株)	2,011,785	2,011,785

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社誠建設工業
取締役会 御中

清稜監査法人
大阪事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 花 枝 幹 雄

指定社員
業務執行社員 公認会計士 卯 野 貴 志

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社誠建設工業の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社誠建設工業及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないか

どうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。